

ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが
あふれます。

監督: 呉美保 主演: 吉沢亮 脚本: 港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作: 五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース: 山国秀幸

製作: 「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダラーゴトリー/博報堂DYミュージック&ピクチャーズ/ギャガ/JR西日本コミュニケーションズ/アイ・ビー・アイ/アミューズ/河北新報社/東日本放送/シネマ・エッセイ)

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給: ギャガ GAGA★ gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく――。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA★
GENDA GROUP



親子の物語が、そしてひとりのコーダの心の軌跡が、点描のように紡がれていく——。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、「きこえる世界」と「きこえない世界」を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。

母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

っては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持て余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。



「ぼくが生きてる、ふたつの世界」岡谷市上映会

2026年 **3月8日(日)** ①10:30(10:00開場) ②14:00(13:30開場)

カノラホール 大ホール

満席の際は次回にお回りいただくこともございます

前売券 一般・シニア・大学生 **1,200円**

当日券 一般・シニア1,500円 大学生1,300円 小中高生800円 (小学生未満無料)

【前売券取扱所】岡谷市社会福祉協議会 (8:30~17:15 土・日・祝日は休)
カノラホール (8:30~17:15 月・祝祭日の翌日は休)
笠原書店岡谷本店 (9:00~21:00)

【主催】岡谷市障害者福祉推進実行委員会 【共催】信濃毎日新聞社、全諏訪聴覚障害者協会、岡谷市
【後援】岡谷市教育委員会
【お問合せ】岡谷市社会福祉協議会 電話:0266-24-2121 FAX:0266-24-3555